



## 生花によいヤナギ

みどりの相談員  
の 野 口 宣 二

春の息吹<sup>いぶき</sup>をいち早く教えてくれ、私達の生活や感情の中にすっかり日本の植物としてとけ込んでいるシダレヤナギをはじめ、生花<sup>いけばな</sup>の材料や庭園植物<sup>ていえん</sup>として、身近になじんでいるヤナギ類のほとんどは日本の原産ではなく、実は大陸からの渡来植物<sup>とらい</sup>なのです。春のはじめ、身近にありながら気がつかない「ヤナギ」を探してみてください。

### シダレヤナギ

湖沼<sup>こしやう</sup>や河川<sup>ていぼう</sup>の堤防<sup>かいたん</sup>等でよく見かけられ、夏の怪談<sup>かいだん</sup>にはつきもののヤナギです。この種類<sup>しゆるい</sup>については、ことさら説明の必要はないように思われますが、万葉集<sup>まんよう</sup>の時代、中国大陸から伝えられ植えられたものといわれています。

シダレヤナギの一種、ロッカクヤナギ（六角堂）は、枝がとくに長く垂直<sup>すいちよく</sup>にいただけるもので雄株<sup>おかぶ</sup>のみであり、シダレヤナギの中で生花に利用しやすい種類ですが、生込み<sup>なまこみ</sup>の際に枝が長すぎる時には途中で輪<sup>わ</sup>を作って長さを調節して利用しています。

### アカメヤナギ

フリソデヤナギとも呼ばれ「ネコヤナギ」の変種と考えられています。9月頃から花を包む鱗片<sup>りんぺん</sup>はしだいに紅色<sup>べにいろ</sup>に染まりはじめ、冬には鮮紅色<sup>せんこうしよく</sup>となって美しい。生花の材料として広く用いられています。また、正月用のミニ盆栽として枝に針金をかけ、枝を垂れさせ



アカメヤナギ

たものにフクジュソウをあしらった鉢物にも用いられている種類です。

## コウテンヤナギ

シダレヤナギの変種。枝は細く、しだれずにうねうねと湾曲わんきよくします。庭園用のほか生花用には、主に芽出し時期か落葉時にそのまま使われるか、生花の流儀りゅうぎによっては着色（金・銀）して使われています。

その他の生花用には石化ヤナギ、黒芽ヤナギ、金芽ヤナギ、小豆ヤナギ、コウリヤナギなどがあります。

栽培は特に土質は選ばず、どこでもよく成長します。水に近い所では特に良く育つので湖沼や河川周辺で多く見られます。

さし木で簡単に増やすことができますので、生花の残りを利用してもしょう。栽培中はテッポウムシに注意してください。

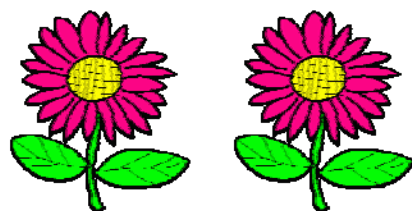
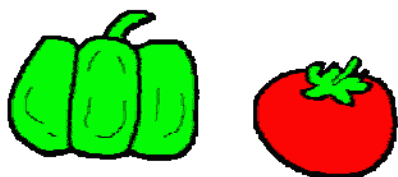


## みどりの相談室



パークセンター「みどりの相談室」では、相談員の先生が園芸に関するさまざまな質問に無料でお答えします。電話でもお受けしていますのでお気軽にご相談下さい。

- 【相談日】 水・土・日曜日と祝日
- 【時 間】 午前10時～12時・午後1時～3時30分
- 【電 話】 047-345-8738 ハナミツバチ



# 小さなファイター「モズ」

自然解説員  
直井 宏

「モズ」スズメ目モズ科。頭は大きく丸みを帯びた体形で、<sup>くちばし</sup>嘴は強く<sup>かぎじょう</sup>鉤状に曲って<sup>しもう</sup>嘴毛が有り、長めの尾羽根を持った種類が多い。世界に約70種類の仲間がいて、日本ではその内の5種類を見る事が出来ます。（<sup>あしゅ</sup>亜種を除いて）

日本で見られるモズ

モズ

全長20cm 留鳥<sup>りゅうちよう</sup>または漂鳥<sup>ひようちよう</sup>（北海道や本州北部では夏鳥）

日本全国で広く<sup>はんしよく</sup>繁殖して、秋から冬には日当りの良い林や<sup>のうこうち</sup>農耕地、川原、公園、庭等に単独で過ごします。関東地方の南部の平地では、他の鳥より早く繁殖期<sup>むか</sup>を迎えて、4月の初旬には<sup>ひな</sup>巣立つ雛を見ることがあります。



モズ

空が高くなり<sup>うるこくも</sup>鱗雲が現れて「モズ」が木の<sup>こずえ</sup>梢で長い尾を半円に描きながら、キーキーキと「<sup>たかなき</sup>高鳴」をするのを見ますと秋を実感します。肉食性の「モズ」が<sup>えさ</sup>餌の少なくなる時期に、良く知った場所で<sup>と</sup>餌を捕れる様に<sup>なわば</sup>縄張りを宣言しているのが「高鳴」です。

「モズ」を漢字で「百舌」と書きますが、正に他の鳥の鳴き声を真似る名人（鳥）です。<sup>がっきよく</sup>楽曲を切れ目なく<sup>えんそう</sup>演奏する「フットオンミュージック」の様にオオヨシキリ、コヨシキリ、セグロセキレイ、ウグイス、メジロ（ぐぜり部）、コジユケイ等々、鳴き声を見事に<sup>ろうろう</sup>演じます。「朗々」と他の鳥の鳴き<sup>まね</sup>真似を<sup>はさ</sup>挟んで歌い（鳴き）上げる「クロツグミ」には及びませんが・・・。

「モズ」には「はやにえ」と言う<sup>とくちょうてき</sup>特徴的な行動があります。特に秋を中心に初冬にかけて、見通しの良い木の梢や、電線、杭等に止って尾を半円に描きながら「昆虫、カエル、小鳥、ネズミ、トカゲ、ミミズ、魚等」<sup>とら</sup>を捕えて木の枝、トゲ、<sup>ゆうしてっせん</sup>有刺鉄線に<sup>つ</sup>突き刺して「はやにえ」を作ります。

また、早春の繁殖期にも作った「はやにえ」から<sup>きゅうじ</sup>雛に<sup>とら</sup>給餌する事もあります。

気性の強い「モズ」は自分よりも大きな相手でも襲<sup>おそ</sup>う事から、江戸時代には「モズタカ」と呼ばれていました。その行動を見れば確かに猛禽<sup>もうきん</sup>と同じです。

それでは「モズ」は何故「はやにえ」を作るのでしょうか。

- ・ 獲物を多く捕えた時に貯食をする。
- ・ 「モズ」は体に比べて頭が大きく、嘴は頑丈<sup>がんじょう</sup>ですが「スズメ目」に属する足は「タカ目」属の猛禽類より弱く、大きな餌などは「はやにえ」を作って固定し嘴で引き裂いて食べる。
- ・ 「はやにえ」を作って縄張りを主張する。等が考えられます。



「はやにえ」にされた昆虫

### アカモズ

全長 20 cm 夏鳥

本州中部以北に渡来<sup>とらい</sup>して、平地より山地の明るい林や高原<sup>せいそく</sup>に生息して繁殖します。北海道では平地から山地の草原、林縁部<sup>りんえんぶ</sup>に多い。

### チゴモズ

全長 18 cm 夏鳥

本州中部以北に渡来して低地から山地の林に生息、樹木の多い場所を好み、本州と北海道で繁殖します。

### オオモズ

全長 24 cm 冬鳥

数は少ないですが、北日本を主に渡来<sup>ひら</sup>して、開けた低木の有る場所や林縁に単独で生息します。

### オオカラモズ

全長 31 cm 冬鳥 (旅鳥)

ごく稀に渡来、低木の有る干拓地<sup>かんとくち</sup>や農耕地、河川敷等に生息します。

「モズ」は体に比べて大きな頭、鋭い嘴、優しいつづらな目、上半身<sup>ふつりあい</sup>と不釣合な細めの足、長い尾羽根で半円を描く動作など、非常に個性的で魅力<sup>みりょく</sup>の有る鳥です。

# 湿地の小さな宝石

自然解説員  
田中宏卓

## はじめに

皆さんはネクイハムシという小さな<sup>こうちゅう</sup>甲虫のことをご存知でしょうか？ この仲間は水辺の水草を主な<sup>えさ</sup>餌とする、体長 1cm 程度の小さな甲虫です。小さいので一般的にはあまり注目されない昆虫なのですが、体全体が<sup>しやくどういろ にじいろ</sup>金色、赤銅色、虹色などに<sup>かがや</sup>輝き、たいへんきれいな昆虫です。今まで 21 世紀の森と広場ではこのグループの昆虫は見つかっていなかったのですが、昨年はじめて私が見つke、調査した結果 2 種のネクイハムシがこの公園にいることが分かりました。今回のどんぐりではこのネクイハムシの仲間の<sup>しょうかい</sup>ことについて少しご紹介したいと思います。

## 公園のネクイハムシ

私が、昨年の 4 月、丁度ゴールデンウィークの始まりの日に自然観察舎の奥の木道を歩いていたときに、フトイというイグサの<sup>きょうみ</sup>仲間の水草の花にたくさんの小さな甲虫が集まっているのが見つかりました。興味を持った私はその虫をルーペでなんとなく<sup>のぞ</sup>覗き込んだのですが、それは小さな体ながら、ルーペの下で日光を<sup>はんしゃ</sup>反射してきらきらと美しく、まるで<sup>ごくさいしき</sup>極彩色の熱帯の昆虫のように輝いていました。そのあまりの美しさに私は思わず”うわっ！”と声をあげてしまいました。

その後の調査で公園にはフトイやウキヤガラといった植物を餌にしているフトネクイハムシとミクリヤヒメガマなどを餌とするキアシネクイハムシという 2 種のネクイハムシがいることが分かっています。これらのネクイハムシの写真を図 1 と図 2 に示しましたが、全体的に首の長い比較的スマートな体の昆虫です。こちらの写真ですと体色がわからなくなってしまうのが残念ですが、ぴかぴかしてとても美しいです。



図 1-2. 松戸市千駄堀から確認されたネクイハムシ 2 種  
(1-フトネクイハムシ、2-キアシネクイハムシ)



## ネクイハムシの忍術

ネクイハムシは成虫になると大半の種は、湿地に生えるカヤツリグサ科などの植物の花粉や蜜を食べて生活しているのですが、幼虫のときは水中の泥の中にいて水草の根っこを食べています。これが”根喰い葉虫”という和名の由来になっています。幼虫が水草の根を食べる・・・文章にしてしまうと当たり前のよう思えてしまいますが、実はこれ相当すごいことなんですよ！？ちょっと考えてみてください。普通、動物は水の中では息をすることができませんよね？昆虫も大半の種は水の中では息をすることができません。トンボのヤゴやカワゲラの幼虫など一部の昆虫は水の中でも息をすることができますが、これは体に魚の鰓のようなしくみがあったり、そのほかの特別な器官があって、息をすることができるようになっているのです。ですが、ネクイハムシの仲間にはそうしたしくみはありません。水草の根を水中で食べるネクイハムシの幼虫はどうやって息をしているのでしょうか？・・・実はおしりに特別なとげがあって、これを植物の根に差し込んで、植物から酸素を吸っているのです(図3 参照)。すごいことだと思いませんか？



図 3. ネクイハムシの幼虫のおしりの先の特別なとげ  
-林(2005)より引用-

## 幻のネクイハムシ

また松戸市には今回ご紹介した 2 種のネクイハムシのほかに、幻といわれるネクイハムシがかつて採集されたことがあります。これは”キイロネクイハムシ”というネクイハムシで、1926 年に湯浅啓温という方がトウキョウダルマガエルの胃の中に入っていたものを調べたときに偶然みつけました。残念ながらこのネクイハムシは松戸市ではそれ以来、まったく見つかっていません。この虫は日本全体でも 9 回しか見つかっていないたいへん珍しいもので、1962 年に最後の個体が福岡県で見つかったからは日本では見つからず、環境省の絶滅の恐れのある生き物のリストでもすでに絶滅した昆虫とされています。しかしネクイ

ハムシを専門に<sup>けんきゅう</sup>研究していらっしゃる研究者の方は、案外どこかにまだ生息しているかも知れない、と考えていらっしゃるようです。

この虫の標本の写真を図4に示します。<sup>きょうみ</sup>興味がある方はこの<sup>まぼろし</sup>幻の虫の再発見にチャレンジしてみませんか？

### ネクイハムシはどうすれば生きていけるか？

ネクイハムシの仲間は生息地が湿地などの水辺に限られています。こうした池や湿地などの環境が開発されて減っているため、いくつかの種類は<sup>おそ</sup>絶滅の恐れがある種とされています。今回ご紹介した2種の公園にいるネクイハムシも千葉県<sup>きさい</sup>のレッドデータブックに記載されている種で、どこにでもいる昆虫というわけではありません。

当たり前ですがネクイハムシの仲間たちは水草の根を幼虫のときの餌としているため、千駄堀池のような池や湿地がなくなってしまうと生きていくことができません。また餌の植物の種類が非常に限られているものが多く、おまけにその餌となる植物自体が絶滅のおそれのある植物であることもあります。ネクイハムシを守っていくためにはその虫を単に取らなければいいというものではなく、生活の場である水辺の環境をよりよい状態に保つことが必要です。ここ、21世紀の森と広場にいつまでもこの湿地の小さな宝石たちが生きていけるよう、公園の自然を大切にしていきたいものですね。



図4. キイロネクイハムシ  
-林(2004)より引用-

### 引用文献

林 成多 (2004) 総説日本のネクイハムシ亜科. ホシザキグリーン財団研究報告 7:29-126.

林 成多 (2005) Web 版ネクイハムシ図鑑 - 日本産ネクイハムシ亜科全種の解説と絵解き検索 -

(<http://www.green-f.or.jp/heya/hayashi/nekuizukan/nekuizukan-top.html>).



# パークセンター2月・3月の催し物



講座	日時	定員	講師	費用	受付
バードウォッチング (雨天中止)	平成20年2月17日(日) 10:00~11:30	当日先着 25名	自然解説員 今村裕之氏	無料	当日
園芸教室 「楽しい春花壇の作り方」	平成20年2月23日(土) 13:30~15:00	45名 (要申込)	みどりの相談員 青島尚祐氏	無料	2/1~
園芸教室 「春だ!寄せ植えにチャレンジ」	平成20年3月8日(土) 13:30~15:00	20名 (要申込)	みどりの相談員 丸尾三恵子氏	2,000 円	2/15~
バードウォッチング (雨天中止)	平成20年3月9日(日) 10:00~11:30	当日先着 25名	自然解説員 直井宏氏	無料	当日
園芸教室 「夏野菜の作り方」	平成20年3月16日(日) 13:30~15:30	45名 (要申込)	みどりの相談員 小林喜代次氏	無料	3/1~
展示 「旅の花日記 06」	平成20年3月25日(火) ~3月30日(日)		自然解説員 川端祥子氏	無料	
みどりの講習会 「カナダのブッチャートガーデンから学ぶ 香る庭づくり」	平成20年3月29日(土) 13:30~15:30	60名 (要申込)	ハーブ研究家 桐原春子氏	無料	3/1~

申込が必要な講習会につきましては、電話または直接パークセンターまでお申込下さい。  
予定に変更が生じる場合がございますので、詳細はパークセンターまでお問い合わせ下さい。

## ご来園の皆様へお願い

安全、快適に公園を利用していただくため、本公園ではいくつかのルールがあります。  
**自転車**(キックボード含む)の乗り入れ、**ペット**の持ち込み、**テント**設営、**魚釣り**(たこ糸を使ったザリガニ釣りはOK、テグスは不可)などは禁止となっています。  
また**動植物の採集**や鳥などへ**エサをやる**こともかたくお断りしています。きれいな花もみんなで採ったら無くなってしまいますし、<sup>かわい</sup>可愛いからと、人間の食べ物を鳥などにあげると自分でエサを捕れず、自然界で生きていけなくなり、かえってかわいそうなことになってしまいます。ルールを守って楽しく過ごして下さいね。

発行日：2008年2月1日  
発行：21世紀の森と広場パークセンター  
開館：9:00~16:00  
(3月1日からは9:00~16:30)  
月曜休館(祝日開館/翌日休館)  
〒270-2252 松戸市千駄堀269  
TEL 047-345-8900  
<http://www.city.matsudo.chiba.jp/>

- ・ゴミは家までお持ち帰り下さい。
- ・なるべく公共の交通機関をご利用下さい。

